

製品名: CD32-C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08369**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	FCGR2C
別名	FCGR2C; CD32; FCG2; IGFR2; Low affinity immunoglobulin gamma Fc region receptor II-c; IgG Fc receptor II-c; CDw32; Fc-gamma RII-c; Fc-gamma-RIIc; FcRII-c; CD antigen CD32
遺伝子 ID	9103.0
SwissProt ID	P31995
免疫原	抗血清はヒト FCGR2C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

背景

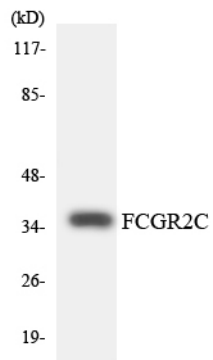
注意: FcR-IIIB に対応するとされることもあります。注意: FcR-IIIC に対応するとされることもあります。疾患:濾胞性リンパ腫におい

て、FCGR2Bに関連する染色体異常が発見されました。転座はt(1;22)(q22;q11)です。この転座は受容体の過剰発現につながります。これが腫瘍の進行に関与している可能性があります。ドメイン:免疫受容体チロシン阻害因子モチーフ (ITIM) と呼ばれる細胞質モチーフを1つ含みます。このモチーフは細胞応答の調節に関与しています。リン酸化 ITIM モチーフは、いくつかの SH2 含有ホスファターゼの SH2 ドメインに結合できます。ドメイン:免疫受容体チロシン活性化因子モチーフ (ITAM) と呼ばれる細胞質内の2回繰り返されるモチーフを含みます。これらのモチーフは、受容体の凝集時に細胞活性化を誘発することに関与しています。function:複合免疫グロブリンγのFc領域の受容体。低親和性受容体。免疫複合体の貪食やB細胞による抗体産生の調整など、さまざまなエフェクター機能と調節機能に関与しています。function:複合または凝集免疫グロブリンγのFc領域の受容体。低親和性受容体。免疫複合体の貪食やB細胞による抗体産生の調整など、さまざまなエフェクター機能と調節機能に関与しています。この受容体に結合すると、B細胞 (BCR) やT細胞 (TCR) の抗原受容体、または別のFc受容体を介して誘発された細胞活性化の以前の状態がダウンモジュレーションされます。アイソフォーム IIB1 は、エンドサイトーシスや貪食を媒介できません。アイソフォーム IIB2 は貪食作用を誘発しない。類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含む。サブユニット: アイソフォーム IIB1 は麻疹ウイルスのNタンパク質と相互作用する。Nタンパク質は麻疹感染細胞の溶解後に血中に放出される。この相互作用は炎症性免疫応答を阻害すると考えられる。INPP5D/SHIP1と相互作用する。組織特異性: 最も広く分布するFc-γ受容体である。単球、好中球、マクロファージ、好塩基球、好酸球、ランゲルハンス細胞、B細胞、血小板細胞、胎盤(内皮細胞)に発現する。ナチュラルキラー細胞では検出されない。組織特異性: アイソフォーム IIC1 は、単球、マクロファージ、多形核細胞、およびナチュラルキラー細胞で検出される。注意: FcR-IIBに対応するとされることもある。注意: FcR-IICに対応するとされることもある。疾患: 濾胞性リンパ腫において、FCGR2Bに関連する染色体異常が認められる。転座t(1;22)(q22;q11)。この転座は受容体の過剰発現につながる。これは腫瘍の進行に関与している可能性がある。ドメイン: 免疫受容体チロシン阻害因子モチーフ (ITIM) と呼ばれる細胞質モチーフを1コピー含む。このモチーフは細胞応答の調節に関与する。リン酸化 ITIM モチーフは、いくつかの SH2 含有ホスファターゼの SH2 ドメインに結合することができます。ドメイン: 細胞質内に免疫受容体チロシン活性化モチーフ (ITAM) と呼ばれる2回繰り返されるモチーフが含まれます。これらのモチーフは、受容体の凝集に伴う細胞活性化の誘発に関与しています。機能: 複合免疫グロブリンγのFc領域に対する受容体。低親和性受容体。免疫複合体の貪食やB細胞による抗体産生の調節など、様々なエフェクター機能および調節機能に関与しています。機能: 複合または凝集免疫グロブリンγのFc領域に対する受容体。低親和性受容体。免疫複合体の貪食やB細胞による抗体産生の調節など、様々なエフェクター機能および調節機能に関与しています。この受容体に結合すると、B細胞 (BCR)、T細胞 (TCR) 上の抗原受容体、または別のFc受容体を介して誘発された細胞活性化の以前の状態がダウンレギュレーションされます。アイソフォーム IIB1 はエンドサイトーシスや貪食を媒介できません。アイソフォーム IIB2 は貪食を誘発しません。類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。サブユニット: アイソフォーム IIB1 は麻疹ウイルスのNタンパク質と相互作用します。Nタンパク質は、麻疹に感染した細胞の溶解後に血液中に放出されます。この相互作用は、おそらく炎症性免疫応答を阻害します。INPP5D/SHIP1と相互作用します。組織特異性: 最も広く分布しているFc-γ受容体です。単球、好中球、マクロファージ、好塩基球、好酸球、ランゲルハンス細胞、B細胞、血小板、胎盤(内皮細胞)に発現する。ナチュラルキラー細胞では検出されない。組織特異性: アイソフォーム IIC1 は、単球、マクロファージ、多形核球、ナチュラルキラー細胞で検出される。

研究分野

B細胞抗原;FcガンマRを介した貪食;全身性エリテマトーデス;

画像データ



FCGR2C 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。